

服としあわせのシェア

∞Change

～服を交換することで誰でも気軽にエコに貢献できるちょこっとボランティア～

実施報告書

2015年12月



AICHI GAKUEN
UNIVERSITY

愛知学院大学

名古屋モード学園

報告者：海野 竜矢

【目 次】

	頁
はじめに	1
1. 経緯・目的	2
1-1 実施経緯	
1-2 実施目的	
1-3 xChange との連携	
1-4 学学連携の結成経緯	
1-5 ファッションにおける経済と環境についての考え方	
2. 方 法	3
2-1 名古屋モード学園との連携	
2-2 xChange～服の物々交換会～ 実施概要	
3. 結 果	7
3-1 プチ xChange の実施 ～愛知学院大学名城公園キャンパス学祭～	
3-2 ぼらマッチ！なごやにおける来場者数	
4. 考 察	8
4-1 学学連携のメリット・デメリット	
4-2 ターゲット選定	
4-3 広報活動	
4-3 ぼらマッチ！なごやにおける開催	
5. 新たなる展開へ	9
5-1 来年度について	
おわりに	9
資料編	

はじめに

現代、世界各国で温室効果ガスの排出量削減を目指す枠組みの協議を進めている今日である。しかし、我々国民レベル—特に日本国内での動きはどうか。まだまだ、環境教育や“エコ”に対する意識が国民の間でバラつきがあると思われる。そこで、国民レベルでかつ気軽にエコ活動に貢献し、地球環境の改善へつなげるイベントの実施が重要である。そこで、エコを“服”に焦点をあてることで、今の生活にリンクした教育も可能であると考え、企画を考案した。以下、服における経済と地球環境の関係を振り返り、より具体的な問題設定—社会的意味を言及することとする。

高度経済成長期における日本は「大量生産・大量消費」の時代であり、“人並み”的生活と豊かさ一生利便性を求めるマインドがあった。具体的な事象として、池田内閣「所得倍増計画」のもとで、日本のGNPは世界第二位となり「消費は美德」という社会的風潮が存在した事である。しかし、この「横並び意識」から転換するのが1970年代から1980年代である。国民意識としての「一億総中流」が根付き、これまでの必需品としての製品が売れなくなった——メーカーとしては高度成長期とは異なる“工夫”が必要となった。そこで、使用価値（機能性）ではなく、付加価値（象徴性）を売り込む商品が登場した。消費者も他者との差異を求め、「多品種少量生産」と「個性的消費」の時代が到来したのはご存じの通りである。

しかし、環境に対する意識が企業そして消費者である国民も含め、低いのが問題点である。まず「多品種」であることは「少量生産」につながらず、大量の資源を投入して生産していることにかわりがないのである。また、リサイクルを行えば、限りある資源を有効活用できる議論もあるが、ハーマン・ディ

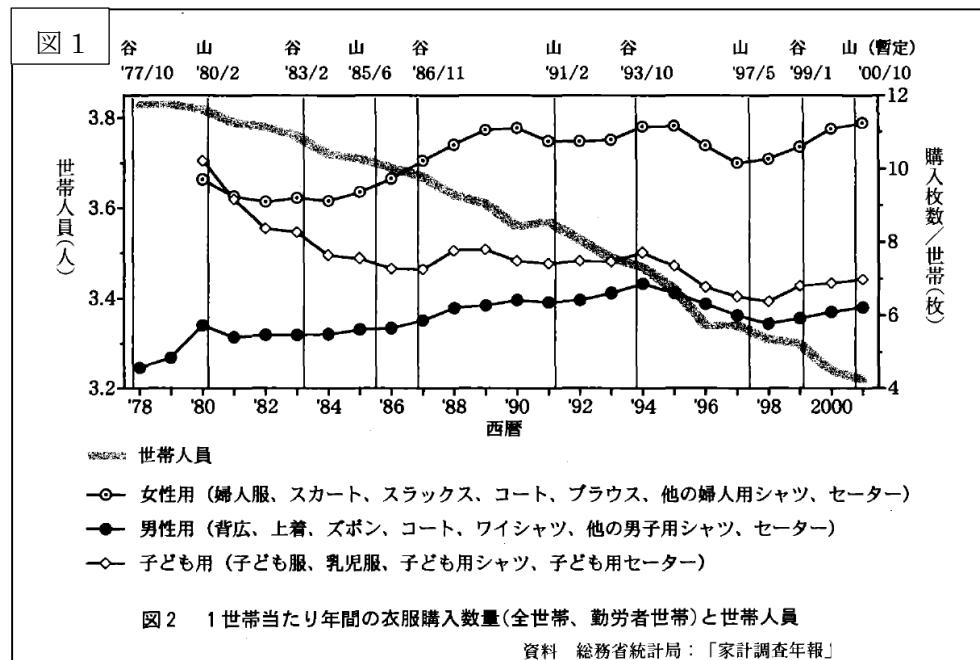
リーの法則¹に沿った技術になり得てないのがほとんどである。

さらに、国民意識として「大量消費→大量廃棄」が根付いているのも問題である。年間で日本人は「10kgの服を購入し、9kg廃棄している」現実がある。図1を見ても大量消費が多いことがうなづける。すなわち、総コストは高くつくこと——服の値が安くても「廃棄」するのに環境コストがかかることに気付いていないことにより、大量消費へつながっていることが考えられる。

そこで、これら社会的課題に対する活動に関心が高いN氏の紹介より、愛知学院大学経済学部3年海野が「xChange²」の活動を知った。そこでイベントの企画を海野が担当し、課題解決の検討を進めたとした。

¹ ①再生可能な資源の消費ペースはその再生ペースを上回ってはならない。②再生不可能な資源の消費ペースはそれに代わりうる持続可能な再生可能資源が開発されるペースを上回ってはならない。③汚染の排出量は環境の吸収能力を上回ってはならない。出典：環境文明 21 HP より

² 資料編にて記述。



1. 経緯・目的

1-1 実施経緯

11月に行われる対面ブース型ボランティアマッチングイベント——ぼらマッチ！なごやにて、学生オリジナル企画を募集中であった。そこで、企画策定中の段階で xChange の活動を知ったことにより、xChange 企画を当イベント協同会議に提出した。また、当イベントへ若年層の来場者の増加も狙い、イベント自体をより活性化させるため、提案した。

1-2 実施目的

来場者に服の物々交換をすることで、大量消費・大量廃棄のサイクルを弱めること——循環型社会の形成とオシャレなエコ教育をすることを目的と設定した。

さらに、「ぼらマッチ！なごや」で実施するにあたり、主催サイドの実施理念を念頭に置き、『服を交換することで誰でも気軽にエコに貢献できるちょっとボランティア』をキャッチコピーとして設定した。これにより、来場者が服の物々交換を楽しんでもらうのと同時に、間接的に環境教育を行うことで、今後のエコ活動へのマッチングを目的とした。

1-3 xChange の屋号借り

1-1 の実施目的を達成するため、先駆的に取り組んでいる団体の力を借りる必要がある。そこで、「はじめに」へ記述したように、プロジェクトをよりスムーズに進めるため、「xChange」の屋号を借りることとした。また、この xChange のルールとして『エピソード・タグ』を添えて服を交換することができます。このことにより、よりモノを大事にする精神を育み、目的達成へ近づけるものである。

1-4 学学連携の結成経緯

xChange の屋号借りのルールとして「オシャレにディスプレイすること」が挙げられている。しかし、企画者サイドの大学メンバーの力では限界がある。そこでそれを専門とした学校と連携することにより、屋号借りが可能になり、かつ服の交換時に専門的なアドバイス受けられる—交流の創造も広がっていく。また、服の交換時に必要な「服の事前回収」、「什器の不足」も連携により解決へつながる。

このことにより、「名古屋モード学園 ファッションビジネス学科」と連携し、企画を進めることとした。

1-5 ファッションにおける経済と環境についての考え方

本来、エコは「ecology（環境）」と「economy（経済）」の意味から成っており、どちらか一方だけが発展しても、長期的な視点からでは持続性に欠けるといえる。

当企画は「服の交換会」であるが、決して「服を買うべきではない」と主張しているわけではない。服の取引により、経済が拡大することは非常に重要なことである。しかし、購入した服を着なくなったり、廃棄する現実がある。廃棄するコストも考え、服を大切にする人へ新たに巡る——持続可能な発展の考え方の浸透が重要である。

そこで、循環型社会の考えに基づいた“エコ”にオシャレ”に暮らす——新たなライフスタイルの提案でもある。

2. 方 法

2-1 名古屋モード学園との連携

前述したように、xChange の屋号借りの条件、そして来場者に服の物々交換会をより楽しんでもらうため、名古屋モード学園ファッションビジネス学科と連携した。

役割分担として、名古屋モード学園は「会場レイアウト」、「服のディスプレイ」、「当日の接客」を、愛知学院大学は「企画策定」、「広報」、「備品・小物調達」をそれぞれ担当をつけ、企画検討を進めた。

2-2 xChange～服の物々交換会～ 実施概要

名古屋モード学園と愛知学院大が打ち合わせを重ねた結果、xChange の参加ルールを以下のように定めた。

ばらマッチ！なごや 概要

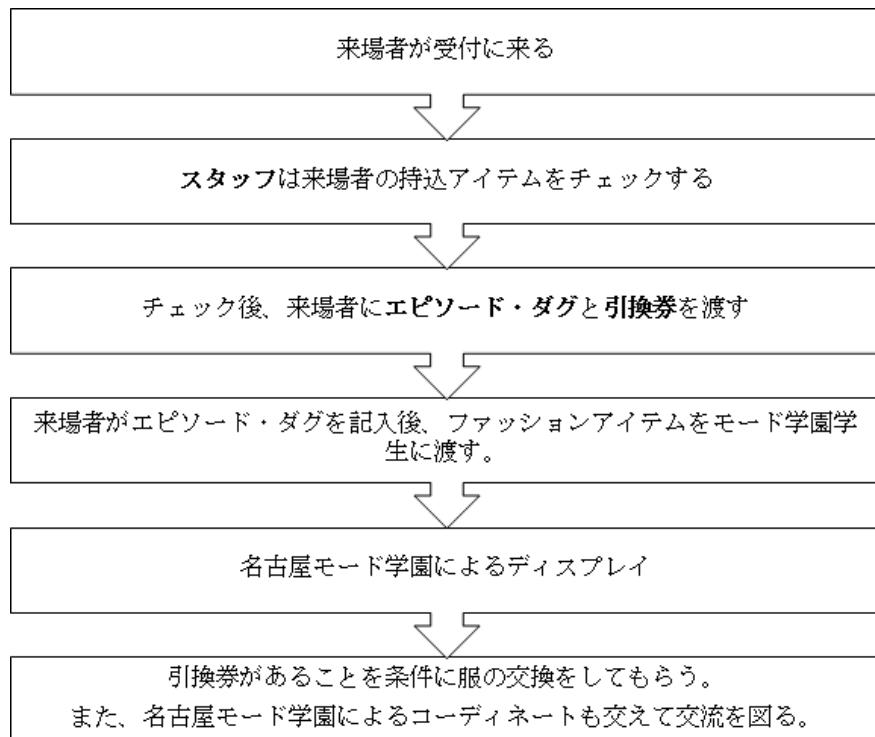
主 催	名古屋市・名古屋市社会福祉協議会
後 援	愛知大学
企画運営	愛知学院大学 AGUボランティアセンター 学生 名古屋モード学園 ファッションビジネス学科 学生
協 賛	愛知学院大学 地域連携センター 名古屋モード学園
前日準備	平成27年11月13日(金) 18時頃～
開催日時	平成27年11月14日(土) 10時30分～16時
実施場所	愛知大学 名古屋キャンパス 講義棟5階 L504・L504教室 (名古屋市中村区平池町4-60-6)
参 加 費	無 料

xChange 概要

キヤッチフレーズ	服を交換することで誰でも気軽にエコに貢献できるちょこっとボランティア
参加費	無 料
参加方法	<p>簡単！3 Step でできる『思いとファッショナアイテムの交換会』！</p> <p>①ファッショナアイテムを寄付—会場に持ち込もう！ 持込制限：1人5点まで</p> <p>②エピソードタグを書こう！ 寄付するファッショナアイテムにあなたの思いをのせましょう。</p> <p>③好きなファッショナアイテムを持帰ろう！ →名古屋モード学園によるファッショナコーディネートも 楽しめます。</p> <p>持帰り制限：寄付点数に対応。</p> <p>※ファッショナアイテムの寄付がありませんと参加できません。</p>
諸注意	<ul style="list-style-type: none"> ・着用感のない洗濯済みの衣服や小物をお持ちください。 ・シミや汚れ等のダメージがあるものは引き取れません。 ・楽しい交換会にするため、ブース内で持ち込むアイテムの点数や状態をチェックをさせていただいております。 ・持帰り用の袋をご持参ください。→当会場では袋は用意いたしません ・子供服の交換は受け付けておりません。
エピソードタグ	エピソードタグは会場で用意いたしますが、xChange ホームページからもエピソードタグをダウンロードできます。（ http://letsxchange.jp/about/tag ） ですので、来場前に付けていただいて結構です。
残った服	次回開催に向け、愛知学院大学にて保管。

対象 アイテム	洋服(レディース、メンズ) ズボン、スカート、バック、帽子、 アクセサリー、スカーフ
対象外 アイテム	靴、靴下、下着、時計、ピアス、 ハンカチ、子供服、 その他清潔上良くないもの

イベント当日におけるスタッフの流れ



引換券

今回、ファッショナブルアイテムの物々交換をするにあたり、スムーズに公正・公平な交換ができるよう、引換券のシステムを導入した。

これは来場者の持込点数に応じて、下の引換券の○の部分に引換点数を書く。また交換は以下の「学祭」と「ぼらマッチ！なごや」の実施時間中で引換券を持参すれば、どちらのイベントでも交換可能とした。

~xChange~

点まで交換OK!

愛知学院大学ボランティアセンター×名古屋モード学園

MKC学祭

日時 : 2015/10/18(日)
AM10:00～PM17:00

会場 : 愛知学院大学
ぼらマッチ！なごや

日時 : 2015/11/14 (土)
AM10:30～PM16:00

会場 : 愛知大学

日本人は1年間に
10kgの服を買
うけど捨てる

広報

AGU ボランティア

センターのfacebook活用や、中日ショッパーによる取材、アパレルショップへのチラシ配布により、周知活動を行った。

中日ショッパー 掲載記事



詳細はIP (<http://letsxchange.jp/eventinfo/2015/entry-2876>) へ

DATA

開催日時／11月14日(土)午前10時30分～4時
開催場所／愛知大学名古屋キャンパス(中村区平池町4-60-6)講義棟5階(「ぼらマッチ! なごや」会場内)
問い合わせ／愛知学院大学の海野竜矢さん(電話080-1614-6948)

今週のイチオシ

気軽にエコ活動!! 洋服の物々交換会を開催

愛知学院大学と名古屋モード学園の学生が11月14日に、不要になった服を交換し合う「服の物々交換会」を開催。不要になった服の持参が参加条件で、1人5点まで持ち込み可能。持ち込まれた服には、持ち主が服の思い出を書いたエピソードタグが添えられます。服は秋冬物のみ(子ども服不可)で帽子、バッグ、アクセサリーもOK。参加無料(予約不要)。

チラシ(名古屋モード学園学生作製)



服を交換することで誰もが気軽にエコに貢献できるちょっとボランティア

3Step

1. ファッションアイテムを会場に持ち込もう!(1人5点まで)
2. エピソードタグを書こう!(会場にてご用意)
～寄付するファッションアイテムにあなたの思いをのせよう～
3. 好きなファッションアイテムを持ち帰ろう!

※ファッションアイテムの持ち込み無し=交換不可。

対象アイテム: 秋冬洋服(レディース・メンズ)、帽子、バッグ、アクセサリー
詳しいことは、<http://letsxchange.jp/>までアクセス!



『中部リサイクル運動市民の会』へ寄付予定—新たな形で再利用

問い合わせ先
愛知学院大学 地域連携センター
TEL:052-911-1011 MAIL:m-ccc@dpc.agu.ac.jp

3. 結 果

3-1 プチ xChange の実施 ～愛知学院大学名城公園キャンパス学祭～

ぼらマッチ！なごやでの開催に先駆けて、ぼらマッチ！に向けての広報を目的に、愛知学院大学名城公園キャンパス学祭にて小規模での xChange を実施した。以下概要になる。

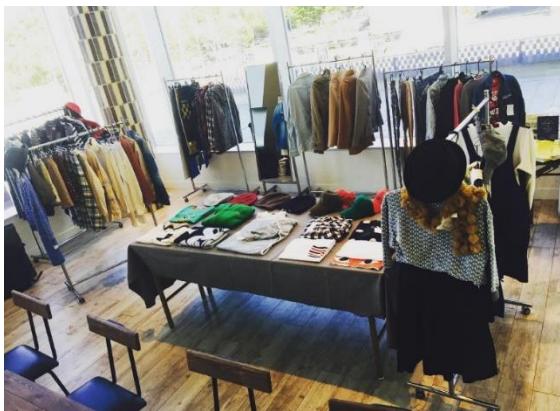
開催日時	平成 27 年 10 月 18 日(日) 10 時～17 時
実施場所	猿カフェ 愛知学院大学名城公園キャンパス店
ブースへの来場者数	10 名

手ごたえ

学祭来場者（10～20 代）に声をかけたが、反応は良くなかった。一方、猿カフェ来店者（30 代以降）に声をかけるといい反応が返ってきた。興味をもったのは全体的に 1 割～2 割程度か。その中でも比較的に主婦層が多かった。

また、興味を持ってくださった方の中には、一回自宅に戻られて、服を持参していただいた方もいた。

開催様子



3-2 ぼらマッチ！なごや※における来場者数

xChange ブースにて、服の物々交換会に参加した人数は以下のとおりである。

※実施日時等は P3 を参照のこと。また実施様子は P11 にあり。

モード学園学生	246 名
一般来場者	20 名
運営スタッフ(学生)	21 名
計	286 名

詳しい考察は次ページ以降論ずる。

4. 考 察

4-1 学学連携のメリット・デメリット

メリット

多方面で交流できる点が挙げられる。それぞれの領域で学んでいることが一つのステージになることで、価値観の違いや考え方など勉強になる点も多かった。また、モード学園サイドは、ファッションビジネス学科として、(学外において)人と服を通して触れ合う機会——接客やディスプレイの実践ができた点も挙げてもらった。愛知学院大学サイドとしては、ファッションに関する専門分野の力を借りることができた点が挙げられる。

デメリット

直接話しをするため、どちらかの学校で打ち合わせを行う必要があった点が挙げられる。今回、企画を進める上で、不必要的打ち合わせもあったため、今後はLINE等の通信手段で効率的な情報交換でのデメリットを埋めたい。

企画始動から実施までのプロセスの振り返り

良かった点 継続したい点	<ul style="list-style-type: none">エピソードタグを通じて、自身の洋服と向き合う事ができた(感じ取れた)こと。いらない服を多く持っており、服が必要な人へ巡ることこれが良かった。実際に服を交換してみて、協力し合う姿勢
問題点	<ul style="list-style-type: none">それぞれの役割をハッキリ取り決める。意識の統一。愛知学院大学サイド学生の意識の低さ。(積極性が足りなかった) →純粋にファッションは好きだが、社会的取り組みに対しての理解が浅かった。トレンドのモノより、長く使える服の提供を呼びかけたかった。エピソードタグの取付の際、麻ヒモでは手間がかかる。 →専用のプラスチック糸(ロックス)などの簡単に取り付ける事の出来るものを使うべき(効率化)学祭実施後、しっかりと反省をすべきだった。 →会場雰囲気、服の量に満足してしまった。当日の動きについて反省すべきだった。メンズ物が少なかった。来場者が持ち帰りできる服がなかった。

4-2 ターゲット選定

今回、老若男女問わず、ターゲットを絞らないで服の物々交換会を実施した³。結果的に、一般参加者は主婦層が多く、学生(モード除く)もわずかながらいた。

4-3 広報活動

今回、広報活動の不十分さ——消極的姿勢が一般参加者の低さに結びついたと考えられる。まず、告知が全体(ぼらマッチ!なごや参加大学・団体)にいきわたっていない点だ。これは告知のタイミングが遅い、広報を効率的に行える施設・店舗へ出向く数が少なかった。

³ 子供服、マタニティは対象外とした。

一方で、中日ショッパーにて記事掲載をしてもらった結果、参加者から問い合わせの電話がある等、効果もあった。

4-3 ばらマッチ！なごやにおける開催

「あなたにマッチしたボランティアを見つけよう！」がばらマッチ！なごやの開催目的であるが、その目的に合うマッチング——来場者に“エコ”の重要性の伝達がうまくできなかった点も反省点である。会場の掲示物など工夫が必要であった。また、接客を行うモード学園学生への意識統一も必要であった。これも互いの役割を不透明にしてしまったことが原因である。

5. 新たなる展開へ

名古屋モード学園サイドでは、「スタイリスト学科」との連携企画で新たな服の物々交換会が実現するのではないかとの提案があった。愛知学院大学サイドとしても「服の物々交換会×ファッションショー」のようなよりオシャレにかつターゲットを若年層に絞った循環型社会の伝達の企画をできたら面白いのではないかと検討している。

5-1 来年度について

なお、来年度ばらマッチ！なごやでの開催は未定である。より集客が見込めるイベントへ出店など再検討する必要がある。

おわりに

企画を実施した結果、参加者からは「次回も是非開催してください」など好評価を多く受けた。効率的な広報活動等を行えば、より多くの来場者が見込めるのではないかと考えられる。さらに、「もったいない」の精神を浸透させることで、個人レベルでかつオシャレに循環型社会形成への力になれるなどを、より多くの人に伝達していきたい。

最後に、開催を後押しして頂いた名古屋市社会福祉協議会／作業部会の皆様に感謝申し上げます。

また、企画に賛同し、学校でご協力して顶いた名古屋モード学園様にも深くお礼申し上げます。

海野 亮矢

資料編

xChange とは

始まり

これは、丹羽順子氏が「古着を持ち寄って、交換会をしよう！」というアイディアから、2007年、東京都のカフェを借りて「物々交換パーティー」が開催されたのが始まりです。そしてこの取り組みを「xChange(エクスチェンジ)」といい、かつ xChange 事務局の代表が丹羽氏であります。

物々交換パーティーの内容

着なくなったけど捨ててしまう服などのファッショニ・アイテムを持ち寄り、きれいにディスプレイ、気に入ったものがあれば、無料で持ち帰りOKという取り組みです。

さらに、大きなポイントとして、出品するアイテムには、思い出やメッセージを書きこんだ『エピソード・ダグ』を一点一点取り付けるルールがあることです。

これにより、「金額」ではなく「つまっている思い」が、ファッショニ・アイテムの価値を高め、人の輪を広げる一思いの交換も楽しめます。

また、xChange の取り組みでは「スロー、スマート、ストーリー」という 3 つの“S”にこだわった開催に重きを置いています。参加者がゆっくりと人と交流し、服を選び、お金をかけないことで、「愛情」のある交換会の実現を目指しています。

出典：丹羽順子著『「小さいことは美しい」シンプルな暮らし実践法』、株式会社 扶桑社、2011

物々交換の流れ

xChange 事務局による基本的な「xChange 参加方法」を以下に記載します。

STEP 1	着なくなったファッショニ・アイテムを 1 点以上用意する。
STEP 2	出品アイテムに、エピソード・タグを取り付ける。
STEP 3	アイテムを会場へ持込み、受付をする。
STEP 4	会場内へディスプレイ。
STEP 5	お気に入りアイテムを探す。
STEP 6	最後に持帰りアイテム数を受付に申告する。

開催のルール

xChange の名前を使用する場合、4 つの開催規約（ルール）あり。

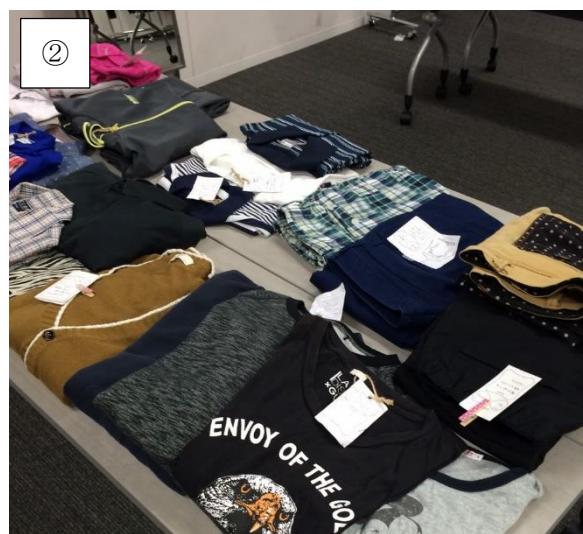
- ①エピソードダクを付ける。
- ②オシャレにディスプレイ。
- ③ビジネスにしない。
- ④開催概要を事務局へ知せる



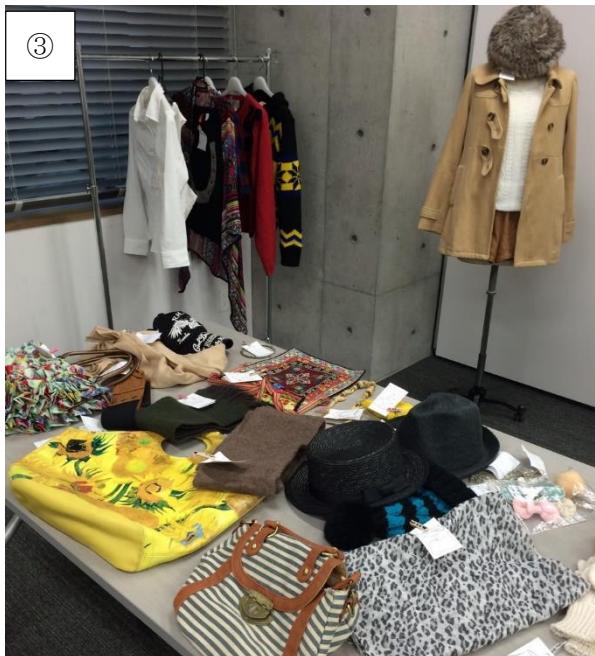
実施風景（11月14日（土）ばらマッチ！なごや運動）



①服を交換する参加者で賑わう。



②対象アイテムとエピソード・タグが添えられたアイテム。



③様々なアイテムが集まる。ディスプレイも工夫あり。



⑤インスタグラム（SNS）を活用した広報と運営メンバー。



④撮影コーナー



⑥図中央、企画者海野。